カンボジア国の水道と北九州市の活動の評価

早稲田大学　佐藤裕弥

2022年1月13日

プノンペン水道公社より

プノンペン水道公社より（報告の現在地の遠景）

北九州市・JICAの象徴的事業

カンポット上水道拡張計画ソフトコンポーネント（2018.8）

生産管理指導

浄水処理系統解説

沈殿池清掃

最終日記念撮影

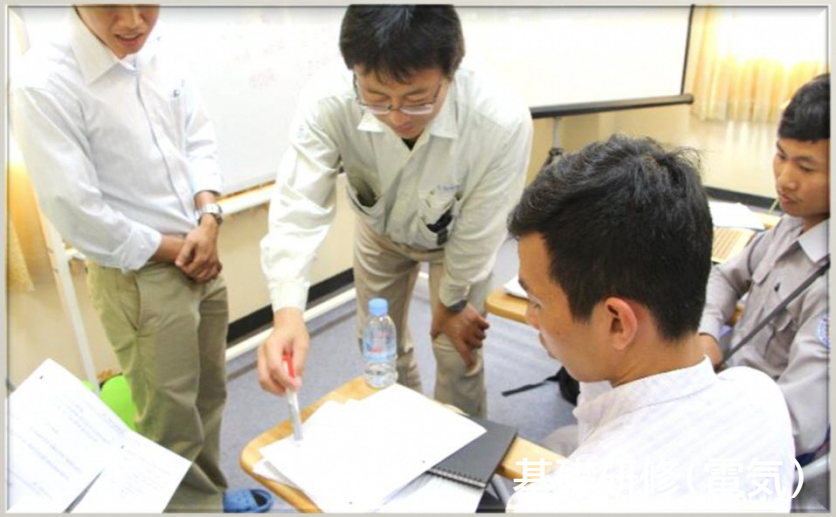
新浄水場 立ち上げ

日本カンボジア上下水道セミナー開催（2018.12）

上下水道セミナー

シェムリアップ水道公社 中央監視システム更新工事（2019.1）

完成


基礎研修（電気）

操作説明

入力全点検査

電算設備 試運転

シェムリアップ上水道拡張事業（KWS・KOWBAとの連携による海外水ビジネスの成果）

海外水ビジネス事業の現場視察（先週）

カンボジア国水道行政管理能力向上プロジェクト（2018.7-2022.6）

地方水道 立入検査

インバーター盤

末端水圧測定

運転状況ヒアリング

末端水圧測定

カンボジア国水道行政管理能力向上プロジェクト（2018.7-2022.6）

研修・協議（先週）

水道事業管理システム研修

Evaluation Committee（料金決定）協議

企業会計研修

企業会計研修

北九州市のカンボジアでの活動と評価

活動の意味と今後

【中期経営計画実施事業における位置づけ「対応すべき６つの課題」】
（本日の「資料３－１」、「資料３（参考）p.10参照）
⑤北九州市が持つ技術力・経験を最大限に活かした「国内外に貢献する上下水道」・・・目標達成

※　**委員としての評価結果（目に見えない大きな成果に注目すべき）**

【現状】 浄水場の建設・拡張などの「狭義の技術」面での貢献から「広義の技術」としての料金適正化の検討、企業会計の適正化などの経営管理力の強化まで、活動領域が広がってきている。職員の「多能化」（効率性・柔軟性の向上）の機会でもある。

→　活動領域の広がりは、これまで以上に北九州市へ直接還元できる広義の「**技術の蓄積の場**」となっている

北九州市のカンボジアでの活動と評価（続き）

活動の意味と今後

【海外貢献は北九州市への貢献】

- 料金・会計などの領域への関与は、今後の北九州市の市民に対する水道サービスに活かすことができる貴重な機会となっている
- 北九州市の人材育成の「場」（海外での経験を北九州市の水道利用者に還元する技術・経験と能力向上の場）としての機能を有する
- 海外事業の推進は、今後とも北九州市が解決に取り組むべき課題（安全・持続・強靭）に直結する活動となっている

➡　海外での経験を北九州市民に、さらに水道広域化の活動に直接かつ密接に還元できる活動といえる

【まとめ】

- 北九州市の水道の技術だけでなく、北九州市のシティ・マネジメントができる人材輩出機能を有している

➡　つまり、**海外への貢献は、北九州市へ貢献するための舞台装置であり、ますます重要性が高まっている**。

海外事業展開（国際貢献ビジネス）は、現地国
への貢献ばかりではなく、北九州市の将来に
とって、さらに重要な意味をもってきている